

正

甲
ナ
三
ハ
号
三

(注) 大筋の記憶で経緯は判るがここに記してある日付は記録等で判明した日付を書いている

三井の葬式では検察関係の花輪が多数と

渡真利が松山から戻ったとTELがあり検事総長や検察関係の花輪があり三井は弁護士か検事やないかと口走っていた

6月26日三井と公安部長室で渡真利が会う

渡真利からのTELで三井は検事だと云い高検の公安部長室で三井と会い三井は公安部長やったとのこと

三井から渡真利に2百万の出資を受けたと聞く

渡真利曰く三井から2百万の出資を受けたが三井は利子は要らんというのでその分を飲食代で支払うと言っていたと口走っていた

(注) このことはもっと後のほうで聞いているが記録からこの時期に渡真利が2百万を受領していることが判明している為このページに記しておいた

三井とデートクラブに行く

渡真利曰く三井をデートクラブへ案内したと云い その後にも三

三井との契約の支払いを延長したため三井は裁判所へ残金を納める為一旦ローンを組み亀谷が一括の支払いをするまでは亀谷がローンを支払うことで合意したと

7月10日 三井からスポンサーを紹介されたと

渡真利曰く日航ホテルで三井の先のスポンサーを紹介してもらったと 三井は何かスポンサーと契約が成立した様子やったと云いホテル代は渡真利が支払いデート嬢二人分用意してくれと言っていたがスポンサーの方が断ったから中止したとのこと

7月13日渡真利スポンサーに会いに四国へ行く

渡真利曰く日航ホテルで会った 三井の先のスポンサーに会いに四国へ行って来たが話が違うとぼやいていた 加ト吉がどうのと口走っていた

7月16日横山の弁当切れ他事件のことの有無を三井に聞かす

横山は切符（逮捕状）が出ていて長期に渡って逃亡中で日頃から複雑そうなことを口走っていたがTELがあった時も同様のことで横山曰く 弁護士に聞いても弁当（執行猶予）が切れとるのかどうか判らんとか又岡山での事件が時効になってるか判らんと云

い大阪でも事件を起こしているが罰金になるかどうか知りたいと
要求するように（三井のこと）口走っていた為横山に聞いてやる
と告げ改めて詳しい話を説明させた

この時横山が日頃複雑なことを口走っていた意味が判る 横山のT
ELを切った後に渡真利へメールで大阪の事件の傷害沙汰も罰金
に出来んか三井に聞いといてくれと打つ

三井ありきたりの返事

暫く後渡真利からメールで三井の返事が届いたが弁当のことも六
法全書でわかる程度で岡山の事件も同様大阪の事件はわからんと
言っていたとのことで渡真利もメールの最後尾に三井は役にたち
まへんなーと打っていた横山には返事のしようがなかったが三井
に聞かんでも判る法律の仕組み程度の三井のセリフを伝えておい
たが横山は一応有難うございましたと返事をしていた

7月24日三井登録税減税工作する

渡真利からTELで三井がダイヤハイツへ住民票を移すと言い住
民票を移すと登録税が安くなる為やと説明していたが渡真利へは
三井と同居じゃ三井のほうが具合悪いんじゃないかと税金を安う

拘置所の独居房へ入り天井にはカメラが付いていたので見上げると作動していた 着替えの用意をしてなかったので官物のズボンのみ借りる

(釈放後田中に会った時豊嶋さんが亀谷さんは作業ズボンをはいていたと口走った)

勾留後の初見の調べでは野口と書記官も声を荒げる

勾留後の夕食後の調べと云い調べ室へ入ると野口と書記官が居た出頭時と同様に返答していたが野口が突っ込んだ共謀性を問う為渡真利からは事後報告が多かったので野口が問うのは渡真利にも違法やないかと指摘した事らで意に反していた質問の為野口には一つ之問われたら二人の物事は事後報告としか云えんと返答すると野口がそんなことないやろと声を荒げたため再度同様のことを繰り返すと野口と書記官までも声を荒げており二人に対し同じ事をまくし立てておいた 初日の調べはこれで終わる

野口 180 度変る

後日も夕食後寝ようかと用意をした頃 調べでと云い調べ室へ行く 刑務官がドアを開けると野口と書記官が立って迎えて野口は

両手を机へ付き頭も机へすりつける様に下げて居た 調べの始めに野口がメモを示し光武さんからの伝言やと口走り渡真利の字で弁護士費用や保釈金も出させてくださいと記してあり野口も同様に伝言の内容を口で足していた この日から野口は会長 会長と言いつつ出迎え時も部屋を出る折も両手を机へ付き頭も擦り付けるようにして書いて書記官も立って礼をしていたが刑務官がその光景を見ていて帰りの道中であの検事さんは頭が低いですねと口走っていた

谷弁護士が接見に来る

2～3 日ご初対面の谷弁護士が出てきて谷曰く光武が入れたと云い俺は細かいことをごちゃごちゃ言うのは嫌いなんや声高に口走りながら他の弁護士は入れんといてくれと釘をさしたように云っていた

釈放をパーセントで示す

野口が調べごとにパーセントで釈放のことを口走り始めは 60%会長の釈放や戸云い段々と数字が上がって行く

久美子の調べを聞く

野口が久美子姉さんもマンションの名義の為女の検事さんが調書
を取ったといい 始め姉さんは半狂乱状態でしたが姉さんには名
義を使われただけの為心配はイランと説明して落ち着いたとの事

二人のことは二人に聞いてくれと終始する

夕食後の調べで ない日もあったが昼間は渡真利らの調べをした
後の裏付を取りに来る様子で野口には渡真利にはいろいろ聞いて
いるが間接のため二人のことは二人にしといてくれと終始する

三井に頼んだ前歴紹介

野口が横山からの前歴紹介のことを問うた為 渡真利へメールで
三井へ聞かしたが横山が知りたい肝心のことはなく 六法全書で
もわかるようなありきたりの返事で渡真利もメールに三井は役に
たちまへんなあと打っていたと返答しておいた

野口がハメる

2 日くらい野口が来ず夕食後の調べで野口が渡真利さんと横山さ
んも調書は合っていて会長だけやと言って来ていた この時過去
には無縁の主義の沽券にも係わることの警察や検察らの調書に合
わすことは皆無に等しいが三井には権力を傘でただ同然になった

マンションを介入していて蜂か動物でも何でも家（やす）を荒らされたらおこるが検事の立場を悪用したものでこの事で三井には精神的に追い詰められた心境で三井のことでもありええかとの思いで野口には二人の調書に合わしといてくれと質問を不要のように強調しておいた為勝手に書いていたが又内容を問われたら意に反することもあり得るが巻き終わるまで問いはなかった 野口が横山さんが会長には迷惑はかからんか心配していたので会長には迷惑はかからんといっておいたと口走っていた 渡真利の他のメールのところで会長の携帯はないんでしょ 川かどこかへ捨てたんでしょ出たら手に出来る人でしょと勝手に口走っていた

（横山の件のことは後の東拘時で横山が面会に来た時この件を話題に仕掛けたとき横山は相談役（亀谷）が調書を書いていると野口が言ったからと口走ったためこの話題を中止したが横山は逆な話を口走っていて野口がハメたことがわかる）

三井が競売妨害で訴えていた

野口が三井は会長を競売妨害で訴えているのでそれを切らなあかんでマンションの買戻しの資金の裏付を聞かしてくれと云い三井は会長が立ち退き料が目的で居座っていたと主張してるんです

渡真利と山歩き中の会話

事件前いつもの山歩きコースの道中と万理が大坪との調書のことを口走っていて三井がキャンセルした2度目のデートクラブではクラブも潰れていてデート嬢も死んでいてそれを大坪が仕立て上げ見せの風景をビデオを撮ってきてとまりに繰り返し復習させ捏造しながら特捜は何でも可能や戸口走っていたとの事と

渡真利全て破産状態になる

渡真利は介護の認可や介護用の青ナンバーのタクシーの認可も下りていたが又オリックスで軽四の購入でタクシー用の車を20台か契約もしていると聞いていたが認可も全てパーと至っていた 保釈後も介護の仕事を仕掛けようとしていたがブローカー的な為空振りの様子

9月24日渡真利服役する

渡真利とは前日もハーブ園でハーブ茶を飲んで会っていたが明日判決で服役すると聞いており24日当日TELしてこれから裁判所へ行くと云い判決で服役をするからと再度口走っていた 渡真利に週刊誌見とけと言うと渡真利が何かあるんですかと口走ってい

最後に

三井がよく引き合いに出すが三井事件がなかったら 八重洲口で
死傷者も居らずと

尤もな話で柵もなかったこと 三井逮捕に群れる柵

思うに三井氏とは膝を突き合わせて語らって居たらいずれの柵も

ない 柵がなかったら何事も起こってない 全てが